

第5章

維持管理をしよう

この章では、きれいな芝生を維持するための方法と、維持管理器具を御紹介します。
日々の管理は芝生と会話しながら、何が必要かを見極めることが大切です。

維持管理の年間スケジュール(夏芝の目安)

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
生育状況	← 生育期 →								← 休眠期 →			
芝刈り	月4～5回						月1回	—				
散水	2～3日に1回			1～2日に1回			2～3日に1回		月1回(乾燥したら)			
施肥	月1回								—			
除草	春～夏の雑草はこまめに取り除く						冬の雑草を取り除く					
目砂*	3～4か月に1回(芝の隙間補修、生長促進)						—					
エアレーション*	1～2回 (踏み固められた土壌をほぐす)				—							
補植*	芝張り・補修				—							

※目砂、エアレーション、補植は芝生の生育状況に応じて適宜行う。

○補植後やイベント等で芝生を使用した後は、養生期間を設けるのが望ましい。

○上記の実施回数は目安で、芝生の状態や使用状況により変動する。

月	作業内容	状態
4～5	<p>●芝生が緑色になってきます。維持管理作業の始まりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 芝張り、張り替え・補修などは、芝生が活動を始めるこの時期から行う。 芝刈りは芝の生長をみながら、月に4～5回。 散水は、雨が少なかったり乾燥が続く場合は、地面に水分が十分浸み込むくらい多めに行う。 施肥は月1回。除草はこまめに行う。 エアレーションは芝が活動を始めるこの時期に行う。 	 <p>4月の芝生</p>
6～7	<p>●夏に向け勢いよく生長する時期です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 芝刈り、散水、施肥は4～5月と同様。 梅雨の時期なので、雨が降ったときの散水はやめるか少なめに行い、根腐れを防ぐ。 排水不良などが原因で病害虫が発生しやすくなるので、芝の刈りくず(サッチ)はほうき・熊手でしっかり取り除く。 病害虫が発生したときは、すぐに専門家に診断してもらう。 	 <p>6月の芝生</p>
8～9	<p>●芝が最も生長する時期で、摩耗部分も回復してきます。維持管理をしっかり行い、芝生を育てていきましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 芝刈りは月4～5回、施肥は月1回行う。 散水は晴天が続く場合、1～2日に1回朝にたっぷりとまくこと。 芝の伸びが悪い箇所や低くなっている部分には目砂を行う。 雑草が種を付ける時期に入ってくるので、根からしっかり取り除く。 	 <p>8月の芝生</p>
10～11	<p>●気温低下に伴い枯葉色に変化していき、休眠期に入ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 芝刈りは10月中旬に1回短めに刈り、翌春まで行わなくてよい。 施肥は10月中旬に1回程度。 冬の雑草が伸びてくる時期なので、除草はしっかりと行う。 散水は地面が乾いたら行う程度。 	 <p>11月の芝生</p>
12～1	<p>●芝生は休眠状態で枯葉色です。生長しません。</p> <ul style="list-style-type: none"> 芝刈りや施肥は必要ない。 散水は冬場、乾燥したら月1回行う程度。 芝生の表面に落ちた枯葉などがあると、芝の生長に良くないので除く。 芝は生長しないので、擦り切れから回復しにくくなる。 またエアレーションなどの更新作業も、芝を傷つけるので行わない。 	
2～3	<p>●芝生は休眠状態で枯葉色です。生長しません。</p> <ul style="list-style-type: none"> 降り積もった雪は、芝生の上に長時間放置しないようにすること。 作業は12～1月と同様で、ほとんどありません。 	

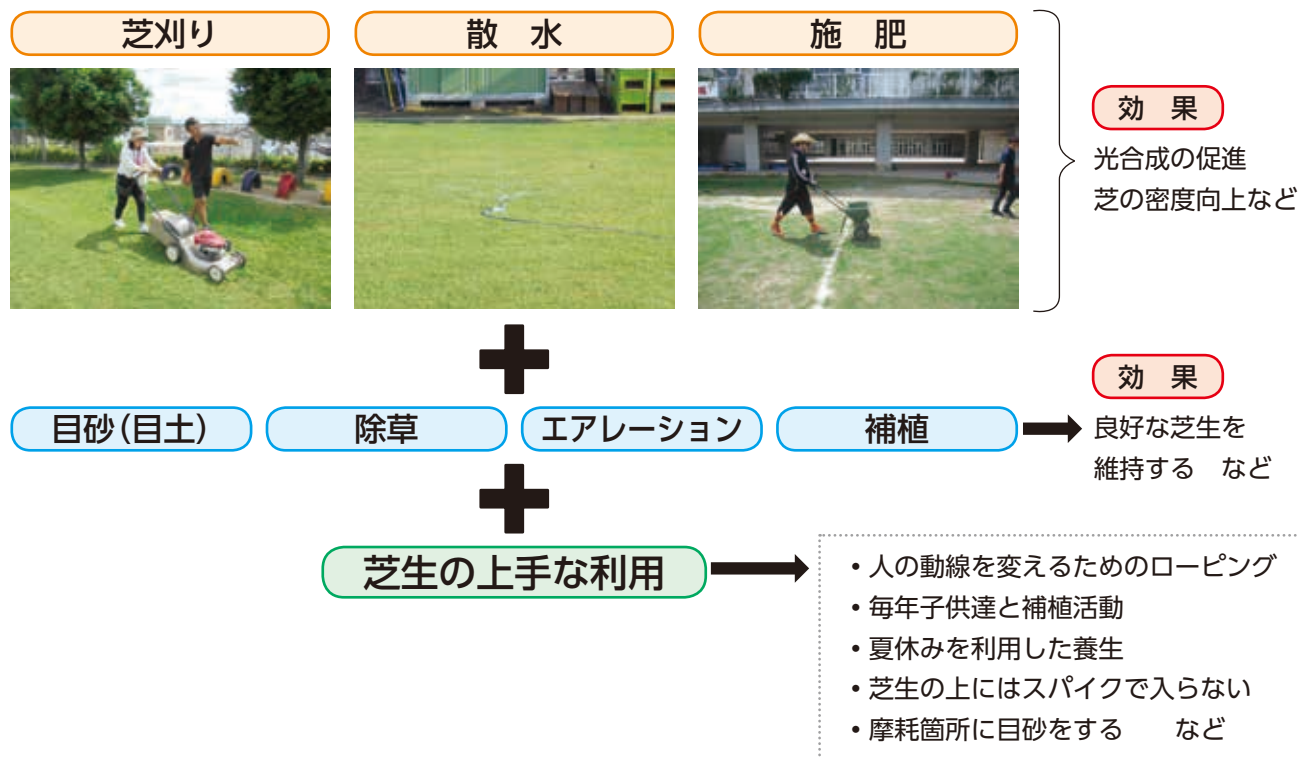
○上記の作業内容は目安で、芝生の状態や使用状況により変動する。

維持管理作業の流れ

ポイント

- ◆維持管理作業の基本は「芝刈り」「散水」「施肥」。
- ◆必要に応じて「除草」「目砂」「エアレーション」「補植」を行う。
- ◆作業自体は維持管理初心者でも行うことができるため、初心者でも作業ができるような機材を揃えることが重要。
- ◆維持管理作業を行うほかにも、芝生の上手な利用方法を習得していくのが大事。
 ……人通りの多い場所が摩耗したら、人の動線を変えるためのローピングを行う。
 ……毎年摩耗してしまう箇所は、イベント形式で子供達と芝の補植を行う。

芝生維持管理全体のイメージ



作業に入る前の安全確認

作業全体

- ◆服装……長袖、長ズボン、安全靴or運動靴、帽子に軍手を着用。
- ◆掃除……芝生の上の小石や小枝などを拾うと、芝刈りの時に刃に絡まって飛ぶのを防げる。
- ◆休憩……作業を行うのは真夏の暑い時期がほとんど。熱中症を防ぐために、必ず30分に1回は休憩をして、長時間炎天下にいないようにする。



芝刈り

- ◆エンジン式芝刈り機は、エンジンをかける前に燃料を満タンに入れる。
(エンジンが温まった状態で燃料を入れると引火する危険性)
- ◆芝刈り機を動かしている時は、芝刈り機に近付かないようにする。(小石等が飛ぶ危険性)

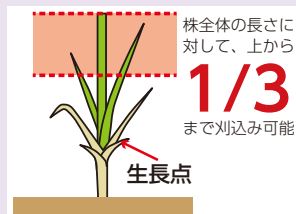
芝刈り

芝生の分けつ^{*}を促し、芝生密度を高めます。

※「分けつ」とは……植物の根元付近から側枝が伸びて株分かれすること。

ポイント

- ◆草丈の上から1/3を刈る。……「3分の1ルール」(刈りすぎは芝生の生育を弱める)
- ◆伸びすぎた芝を一度に生長点まで刈らない。(光合成ができなくなり、生長が悪くなる)
- ◆刈り高はおおむね2.5~3cmを保つ。
- ◆刈りくず(サッチ)を集めて捨てる。(刈りくずを放置すると、病虫害の温床になる)



頻度(夏芝の場合)

- ◆春~秋:月3~4回

芝刈りの効果

- ◆芝刈りを適度に行うことで密度が濃くなる。
- ◆雑草の種が落ちにくくなり、雑草が生えにくくなる。
- ◆適度な芝刈りによってランナー(ほふく茎)が伸び、芝生の生長が促進される。



手押し式芝刈り機(リール式)

対応面積: ~50㎡/h

- ◆小面積の芝生向き。
- ◆単純な操作で作業ができる。
- ◆騒音の心配がない。
- ◆刃の消耗が早い。



電動式芝刈り機(ロータリー式)

対応面積: ~100㎡/h

- ◆小面積~中面積の芝生向き。
- ◆素早く芝生を刈ることができる。
- ◆コードタイプとバッテリー充電式がある。
- ◆多少の騒音が発生する。



エンジン式芝刈り機(ロータリー式)

対応面積: 100~500㎡/h

- ◆中面積~広面積の芝生向き。
- ◆短時間で広面積の芝生を刈ることができる。
- ◆燃料(ガソリン)の補充が必要となる。
- ◆多少の騒音が発生する。



乗用芝刈り機

対応面積: 500㎡~/h

- ◆広面積の芝生向き。
- ◆短時間で広い範囲の芝を刈ることができる。
- ◆慣れるまで操作技術を要する。
- ◆燃料(ガソリン)の補充が必要となる。
- ◆比較的価格が高価である。





刈払機

- ◆ 曲線や築山の芝生を刈るのに適する。
- ◆ 伸びすぎた芝や雑草の刈り込みに使われる。
- ◆ エンジン式と充電式がある。



自動芝刈りロボット

- ◆ 芝を自動的に刈る。
- ◆ センサーが反応する場所のみを刈る。



芝生バリカン

- ◆ 小回りが利くため、建物の際や樹木周りの芝刈りに用いられる。
- ◆ 利用の際は、刃の進む方向へ手を出さないようにすること。



熊手・竹ぼうき

- ◆ 刈り取った芝や落ち葉等をかき集めるのに使用する。

芝刈り機には定期的なメンテナンスが必要です。

研磨、清掃、刈り草詰まりの除去、刃の調整、エンジンオイルの交換、ベルト交換をして、芝刈り機を良好な状態に保ちましょう。



研磨剤



芝刈り機の刃の清掃

施肥

園庭や校庭は他から養分を得られない環境にあります。肥料をあげて、生育を促しましょう。

ポイント

- ◆ チッソ、リン酸、カリウムの配合がそれぞれ8:8:8~10:10:10割合の化成肥料を使用。
※施肥適量 40グラム/㎡(片手一握り程度)
- ◆ 施肥の後には十分な散水を行うことで、肥料を溶かし、芝生が養分を吸収しやすくなる。
- ◆ 1回の施肥量を多くするよりも、施肥の回数を増やす方が効果的！
(普段の半量で2回に施肥回数を増やすなど)
- ◆ 肥料散布機を使ったあとは、肥料が残らないよう水洗いし、乾かす。(さびの原因になるため)

普通
化成肥料
8-8-8
20kg

▲化成肥料イメージ

頻度(夏芝の場合)

- ◆ 4~11月:月1回
冬季の施肥は不要

施肥の効果

- ◆ 肥料が十分に効いていると、葉色の緑が濃く鮮やかになる。
- ◆ 芝生の生育が良くなり、摩耗部分の回復が早くなる。



手押し式肥料散布機

- ◆ 中~広面積の芝生向き。
- ◆ 車輪を押し進むだけで均一に散布できる。
- ◆ 冬芝の種まきにも使える。



手回し式肥料散布機

- ◆ 小面積の芝生向き。
- ◆ ハンドルを回すと均一に散布できる。
- ◆ 冬芝の種まきにも使える。

散水

芝生が光合成を行うのに水は必須です。芝生面積に合わせて機材を揃えましょう。

ポイント

- ◆ 土にしみ込む程度に朝行うのが望ましい。
- ◆ 葉が丸まって細くなっていたらすぐに散水する。
- ◆ 芝生の植え付け後及び補植後しばらくは、こまめに散水する。
- ◆ 夏場はプールの水を利用してもよい。



▲散水不足で葉が丸まった状態

頻度(夏芝の場合)

- ◆ 春・秋：2～3日に1回
- ◆ 夏：1～2日に1回
- ◆ 冬：月1回程度
(土が乾いたら)



散水ホース

- ◆ 小面積の芝生向き。
- ◆ スプリンクラーヘッドの数に合わせて揃える。



穴あきチューブ

- ◆ ホースに多数の穴が開いており、這わせておくだけで広範囲に散水できる。
- ◆ スプリンクラーの散水範囲では足りない部分に利用するとよい。



移動式簡易スプリンクラー(回転式)

- ◆ 形状は多種多様であり、散水範囲も機種により異なる。
- ◆ 均一に散水できる。
- ◆ 芝生面積に合わせ複数あるとよい。



移動式簡易スプリンクラー(ジェット式)

- ◆ 地中に差し込むタイプで安定感がある。
- ◆ 回転式に比べて比較的広範囲をカバーできる。



蛇口散水タイマー

- ◆簡易スプリンクラーと組み合わせて使用する。
- ◆散水の開始・終了時間を設定できる。
(使用例：毎朝6時～1時間散水)
- ◆散水の手間が省ける。



地中埋没型ポップアップ式スプリンクラー

- ◆広面積の芝生化の際には必ず入れた方が良い。
- ◆散水の手間が大きく省け便利。
- ◆ボタン一つで散水ができる。
- ◆砂をかぶって故障を起こしやすいので、定期的なメンテナンスが必要。



地上配置型レインガン

- ◆地上配置型で広範囲に散水できる。
- ◆大型で比較的安全感がある。

目砂(目土)

砂を薄くまいて芝生を保護し、新芽の発芽を促します。

ポイント

- ◆砂をまくことを目砂、目の細かい土をまくことを目土といい、行くと芝生の根付きや発芽が良くなる。
- ◆主に地表が凹んだ部分や芝と芝の間補修、ほふく茎の生長促進のために行う。
- ◆薄く芝生の葉が少し見える程度にまき、レーキ等で平らに均す。
- ◆水はけの良い砂(川砂がおすすめ)・砂場の砂(貝殻が含まれていないもの)を使用する。
赤土や粘土状の水分を含んだ土の使用は避ける。
- ◆エアレーションや施肥作業に合わせて行くと効果的。

頻度(夏芝の場合)

- ◆4～9月のうち1～2回

方法

- ◆目の細かい砂や土を、厚さ2～3mmで芝生の上にすり込む。



トンボ・レーキ・竹ぼうき

- ◆地面を平らにしながらい目砂(目土)をすり込む。



除 草

芝生に生える雑草と対処法を知っておきましょう。

ポイント

- ◆発生初期に根っこから除草するのが効果的。
- ◆芝生と一緒に刈り込めば目立たなくなる！
- ◆芝刈り回数が多いほど芝生が密になり、雑草が生えにくくなる。

子供達と一緒に除草するのもおすすめ！
芝に愛着を持ってくれるようになります。

除草フォーク

- ◆雑草を根から取り除くことができる。
- ◆形状は多種多様で、左の写真のようなものや電動ドリル状のものなどがある。
- ◆雑草を抜いたあとの穴は、目砂で埋めるとよい。



シロツメクサ(3～4月)

- ◆マメ科多年草
- ◆地下茎と種で繁殖
- ◆広範囲に渡って横に広がる。

熱湯をかけて枯らす。
広がる前に地下茎から取り除く。



メヒシバ(4～5月)

- ◆イネ科一年草、種子で繁殖
- ◆放置すると株が増え、高さ30～90cmにもなる。
- ◆刈込みにも強く、容易に再生する。

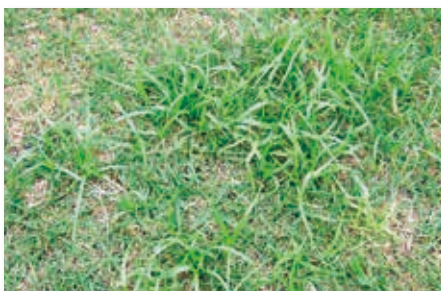
根は大部分が土壌表層に分布しているため、茎と共に根から除去。



スズメノカタビラ(3～4月)

- ◆イネ科一年草、種子で繁殖
- ◆踏み付け、低刈りにも強く、容易に再生する。
- ◆生育と共に株を形成して越冬する。

発生初期(株形成前)に根から除去する。



ハマスゲ(5～9月)

- ◆カヤツリグサ科多年草
- ◆芝生に似た平伏型の草型。
- ◆なめらかで光沢のある濃緑色は長さ20～30cmの線形
- ◆地中に長く根茎を伸ばし、多数の塊茎を形成し、繁殖力が高い。

発生初期に根から除去する。



コニシキソウの仲間(春～秋)

- ◆トウダイグサ科一年草、種子で繁殖
- ◆地面に張り付くように広がり、幅10～30cmほどに生長する。
- ◆裸地化した場所や密度が薄くなった箇所に発生しやすい。

芝の密度が薄い部分に侵入しやすいので、発生場所の刈込みを丁寧に実施する。



シバフタケ・ホコリタケ

- ◆雨季・散水過多により発生。
- ◆毒性はなく人体への影響はない。
- ◆地中の菌糸体により増殖する。
- ◆未分解有機物をエサに、湿度の高い条件で繁殖しやすい。

サッチ(芝の刈りくず)を除去し、エアレーションで土壌の通気性を促す。きのこは取り除く。

エアレーション(コアリング)

固くなった土壌をほぐし、芝生の根に空気を入れましょう。

ポイント

- ◆老朽化した芝生の根を活性化させ、土壌の水はけを良くする。
- ◆芝生が生育し始める前の春頃、年1回以上行うとよい。
- ◆エアレーション後は目砂(目土)をして、たっぷり散水を行うと効果的。
- ◆コアリングの機械を利用し、芝生のコア(筒状の穴)を抜いて補植に用いることもできる。



▲ガーデンスパイク



▲ローンスパイク

ローンスパイク(ローンパンチ)足踏みタイプ

- ◆足で踏み込み、地面に穴を開ける。
- ◆芝生へのダメージが少なく、手軽に利用できる。
- ◆広面積の芝生には不向き。



ローンスパイク(ローンパンチ)手押しタイプ

- ◆ローラーに付いたスパイクを転がして、一度に無数の穴を開ける。



エアレーター

- ◆エンジンモーターの力で早く深いエアレーションができる。
- ◆機械が比較的高価なため、作業を専門業者に委託するのもおすすめ。

その他の維持管理作業

芝生を良好な状態に保ちましょう。

●芝切り、見切り材



ターフカッター、ローンカッター、エッジカッター

- ◆伸びた芝生の縁を切りそろえる。
- ◆芝生の縁ぞろえができる。
- ◆芝の根が張る前に、早めに切るのがおすすめ。

◀ターフカッター



芝見切り材、芝エッジ材

- ◆芝生と砂地の境目を維持するために使う。
- ◆芝生施工時に地中に埋め込み、芝の根の侵食を防ぐ。

● 芝生保護・養生



保護マット

- ◆ 遊具の下や動線になる場所に設置し、踏圧による擦り切れを軽減する。
- ◆ 芝生を保護し、生長を促進する。



芝生保護シート(防虫シート)

- ◆ 冬季の擦り切れ防止・補植後の芝生育成に利用する。
- ◆ 芝生保護シートの上は利用可能だが、雨の日などシートが濡れている状態だと滑りやすくなるので注意。
- ◆ シートの端はペグで留め、ペグの個数・状態を毎日点検する。(子供の怪我防止のため)



芝生養生用柵

- ◆ 芝生を植えた直後、一部養生をする際に利用する。
- ◆ 他にもカラーコーンやロープなどで芝生を囲う方法がある。
- ◆ 養生中も、芝刈り・散水・施肥などの作業を行う。

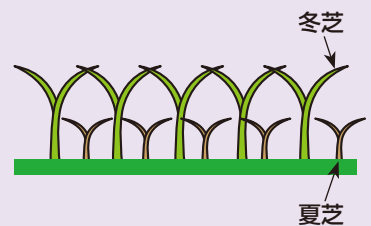
● オーバーシード(OS)

ポイント

- ◆ 冬に休眠する夏芝に、秋から生長する冬芝の種をまき、一年中緑の芝生を保つ。
- ◆ 特に9~10月頃に冬芝の種をまく方法を、ウィンターオーバーシーディング(WOS)という。
- ◆ 播種の時期には種の種類によって違いがある。
- ◆ 年間を通して芝生の維持管理をする必要がある。

オーバーシード実施後の芝の様子(11月頃)

- ◆ 夏芝が茶色くなり休眠し始める時期に、冬芝が生長する。このため、芝生は冬から春にかけても緑を保つ。



夏芝・冬芝の組み合わせ例

夏芝 ティフトン419
冬芝 ペレニアルライグラス

- ◆ ベース芝をティフトン419とし、毎年9~10月頃にペレニアルライグラスの種をまきます。



▲ 3月(竣工直後)

夏芝の休眠時期でも冬芝が残り緑を保つ



▲ 8月

暑さで冬芝が枯れても芝生が緑